

産婦人科この一年

産婦人科医長 川 村 光 弘

産婦人科の2003年は、外的な条件で変動の多い一年であった。全国的な産婦人科医の不足と、産婦人科志望者の減少に対処するため、北海道内の三大学の産婦人科教授と医局が共同で、道内の地域医療協議会を立ち上げ、総合病院における産婦人科医の再編成を断行することになったのだ。

その結果多くの施設で産科診療が中止される一方で、今後も分娩を取り扱う施設は医師を集中配置されることとなった。当院は分娩取り扱い施設となることになっており、今後産婦人科医の若干名の増加が見込まれる。

人 事 異 動

退職

日高康弘 3月31日 旭川医科大学産婦人科へ

野澤明美 3月31日 市立士別総合病院へ

赴任

長坂 武 4月1日 国立札幌病院より

土田 充 4月1日 市立稚内病院より

この1年の総括

1) 周産期関連

分娩数は前年の495件より450件に減少した。全国的な少子化の影響がついにこの地域にも及んだのか、はたまた不景気のなせる技か？なお地域別のデータは表1の通りである。

2) 婦人科関連

手術件数はほぼ前年並みであった(表2)。内容にも著変はなかった。また本年より細胞診を院内検査とし、川村が細胞診指導医として業務を開始した。

3) 地域医療関連

本年も性教育関係の講演を複数の施設で行った。また中川町立診療所におけるサテライトクリニックも定期的に開設している。

4) 教育関連

旭川医大の産婦人科学学生実習を毎週2名づつ引き受け実施した。

5) 研究、学会活動関連

母性衛生学会を中心に活動した。また本年は助産師を指導し初の全国学会での発表を支援した。今後とも助産師の学術活動を援助しつつ、研究学会活動を展開してゆく所存である。

表1 分娩数の地域別年次推移

	1999	2000	2001	2002	2003
名 寄 市	215	256	260	249	250
下 川 町	21	28	34	22	31
風 連 町	31	32	23	29	25
美 深 町	35	40	33	46	27
音威子府村	6	7	3	7	2
中 川 町	15	7	11	11	10
士 別 市	6	9	6	6	6
枝 幸 町	30	41	43	52	49
浜頓別町	34	20	21	33	19
歌 登 町	15	11	13	9	9
中頓別町	8	13	12	10	11
西興部村	3	4	5	3	1
そ の 他	29	14	8	20	10

表2 平成15年 産婦人科手術

腹式子宮全摘術	27	帝王切開術	70
子宮脱手術	13	頸管縫縮術	13
子宮筋腫核出術	7	流産手術	85
卵巣腫瘍摘出術	15	その他開腹	1
子宮外妊娠手術	3	その他非開腹	3
円錐切除術	4		
その他開腹	0		
その他非開腹	8		

合計249件